

授業科目名・形態	地域・在宅看護実習 I 実習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	石川セツ子 他	実務経験の有無	有	開講期	3年前期・後期

【授業の主題】

専門基礎科目の知識を基盤とし、専門科目としての看護の知識・技術・態度の統合を図りつつ、実践へ適応する能力を身につけ、多様な場において多様な人を対象に、必要な対人関係形成能力を養う。

【到達目標】

- 1) 保健・医療・福祉の連携における、在宅看護の位置づけと役割ができる。
- 2) 健康問題解決に必要な地域の保健・医療・福祉サービスの特徴と活用方法を理解できる。
- 3) 在宅療養者・家族の特徴を理解できる。
- 4) 在宅療養者・家族の状態に適した看護を考えることができる。
- 5) 多職種と連携・協働する中で看護の専門性を理解できる。

【授業計画・内容】

- 1) 在宅看護に関連する法令、制度、地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割、関係機関・関係職種の機能や役割。
- 2) 対象のニーズにより活用可能なサービスと活用方法。
- 3) 在宅療養者・家族の特徴、療養別にみた対象者の特徴、在宅看護の対象者としての家族の特徴。
- 4) 在宅療養者とその家族の健康問題・生活状態に適した援助、安全安楽を考慮した日常生活援助。
- 5) 終末期ケアの理解。
- 6) 多職種との連携・協働（在宅ケアシステム、チームケア、ケアマネジメント、担当者会議等）。

在宅看護における看護師の役割機能と看護の専門性。（看護師の責務、看護論理等）

※詳細は実習オリエンテーションにて提示する。

【授業実施方法】：①臨地実習 ②事前学習（課題学習のまとめ）③実習直前オリエンテーション（学習内容と実習目標の確認等）④訪問看護ステーションでの反省会（実習2週間の振り返りと反省）⑤学内カンファレンス（看護の振り返り、在宅看護援助計画書の作成・発表、意見交換）

【授業準備】：訪問看護及び在宅ケアに関連するサービス、関係法規などの①事前学習ノートと②初日分の実習目標を記載した記録を、実習開始前の指定日時までに教員へ提出し内容を確認する。

【主な関連する科目】：地域・在宅看護論①②

【教科書等】：「地域療養を支えるケア」「地域療養を支える技術」編者：臺 有桂 石田千絵 山下留理子
発行所：メディカ出版

【参考文献】：令和4年版訪問看護業務の手引き等、必要時配布します。

【成績評価方法】：1) 実習中における実習指導者や教員による評価（実習中の姿勢や態度・行動等）や、日々の記録のコメント、反省会・カンファレンス等での発言・発表（50%。）
2) 在宅ケア実習評価表（50%。）

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

- 1) 訪問看護の運営業務や、在宅ケアマネジメントの実務経験を活かし実習中の指導に当たる。
- 2) 実習での理解不足や疑問等について、理解が得られるよう振り返り学習をとおして、活発な意見交換ができるカンファレンスを定期的実施する。

【学生へのメッセージ】

- 1) 在宅・施設サービスの実習となりますので、特に同行訪問による実習時には、個々の基本的なマナーをしっかり守りましょう。（事前オリエンテーション時に配布した資料を参考）
- 2) 地域・在宅看護実習の自己学習課題について、しっかり事前の学習をしてから各施設で実習しましょう。
- 3) 実習での学びをとおして、疑問や分からないこと等は、積極的に指導者や教員へ質問し理解を深めましょう。
- 4) 限られた実習期間ですので、主体性を持ち、やりがいと達成感のある実習を体験しましょう。